

2016年度 一松工房 事業報告

1. 事業活動重点事項の成果及び課題

① 就労継続支援事業B型

1日の平均利用者数と利用率（2017年3月現在の状況）

（定員15名）契約者16名 9.17名/日（60%） ※新規利用者2名

- ・2015年度よりEMボカシと味噌を計画的に最大限生産できるよう取り組んできたが、2016年度より利用者適性に合った作業内容への見直しにより収入主力（約300万円）の除草委託作業請負を1/3までに減らしたことに加え、2015年度後半からの味噌発酵不足による販売休止もあり、大幅な作業収入減が見込まれていた。そこで2016年度の作業計画において2015年度売上報告書に基づく商品生産・販売の選択や重点の置き方を工夫した販売計画を作成し、新たな委託作業用意、利用者減のなか、作業班間連携で計画的に作業に取り組むこと、「梅干しパッケージ・リニューアル」「一松昆布味噌製品化」等の実行、新規で長生村委託清掃作業（57万）等の受託などに取り組んだ結果、作業利益は2015年度比-937,222円の減収となった。今後、更なる利益増収の取り組みが必要な状況である。
- ・作業班間連携を図ることで利用者一人ひとりの活躍する作業場面が広がる成果があった。
- ・発達障害など集団が苦手な利用者が増えてきた。「本人にあった作業種不足」「作業環境の未整備（個別的な作業場や職員配置等）」が課題となってきた。
- ・東京や千葉などの都市部で味噌や梅干しが売れた。まあい広場主催「春の市」など、都市部での新たな販売会出店や委託販売先の検討が必要。
- ・味噌漬物作業を筆頭に加工技術、衛生品質管理の向上を進め、利用者が誇りを持てる生産作業を行った。製造工程マニュアルを見直し、感覚に頼っていた部分の数値基準化を図った。（大豆煮時の硬度数値化の毎回実施。糀づくりにおける「糖度数値測定」「発酵機内パネル使用」「糀づくり時の温度測定」）また、「糀屋三郎右衛門」（東京都練馬区）の協力を得て相談や職員の訪問実習研修を行った。昨年度から進めてきた衛生・安全管理の定着（食品製造時の服装・体調・爪等チェック記録化、安全対策、害獣駆除対策）も行った。
- ・作業内容は個別支援に基づく形になってきた一方で、更なる収益向上が必要であり、現状の作業再編や現在の委託作業価格交渉、新規委託作業開拓などが課題。

② 就労移行支援事業

1日の平均利用者数と利用率（2017年3月現在の状況）

（定員10名）契約者8名 7.19名/日（71%） ※新規利用者2名

- ・職員1名減のなかではあったが、職員全体で就労支援員をバックアップしながら個別の就労希望のニーズに対し計画を立ててハローワークでの求人検索や職場実習を行った。残念

ながら就労に結び付くケースはなかったが、引き続き就労希望のニーズに対してしっかり応えていく。

- ・OB支援は、就労先とのやり取りやOB対象の余暇支援など、ときわぎ工舎とも連携しながら随時行った。

2. 運営について

<定員割れをしている現状改善について>

- ・新規利用希望の方とつながりやすくするために特別支援学校、市町村福祉課窓口、関係機関にアピールし新規利用者獲得に動いた結果、学校、相談支援で紹介された方がいた。その結果、新規利用者4名があったが、いずれの方も週1～2日程度の利用頻度にとどまり、定員割れ改善には至らなかった。今後は、送迎ルート of 拡充、建物外観のイメージアップ等の検討が必要。
- ・職員間で利用者支援についての共通理解・統一的な対応はその都度図り対応し手応えも感じているが、今のところ「定員割れ改善」に対する目に見える成果にはつながっていない。

<職員の姿勢と行動>

- ・障害特性については、日々の利用者さん対応を通して職員間で整理し学ぶ機会は多かったが、研修として職員が障害特性を学ぶ機会は多くはなかった。
- ・各作業における職員の専門性についても例えば味噌の発酵不足などのトラブル対応の中で学ぶことも多かった。それ以外でも専門家に積極的に相談し、そのアドバイスを実践する姿勢が生まれた。
- ・計画作成はされても実行に至っていない部分があった。今後は、年度途中で全体で計画進捗状況の確認機会をもち、各自の役割と責任を自覚して実践していく必要がある。
- ・作業班での毎月の販売報告は定着し、それにより根拠ある作業計画作成が出来てきた。

<地域とのつながり>

- ・一松工房味噌祭りにおいて周辺店舗や地元企業の協力を得た企画づくりは昨年度からの継続の形で今年度も好評だった。
- ・今後、「事業所周辺ゴミ拾い」「味噌づくり体験講座」等の企画検討や地域のためにもなる新たな作業を「優先調達法」、各市町村の「環境条例」などを後ろ盾に行政への企画・提案・実現への動きや、就労支援にもつながるような一般企業への委託作業形態の模索も検討する必要がある。

<利用者の健康について>

- ・ビーバー号歯科衛生士による利用者指導が好評だった。
- ・持病を持つ利用者や、喫煙習慣や不健康な食生活などを続けている利用者に対し、金銭管理を整えることで定期通院や食生活改善が図られたケースがあった。

<生活ホーム支援>

- ・生活ホーム支援をおこなった。法人としてグループホーム等設立検討も視野に入れて具体的なハード面、ソフト面などについて課題を明確にしながらか支援に入っていく必要がある。